

題紙齡貳百號

帝都の大受難、關東大震災、皇族の御難、柔道有受難と申さねばならぬが、正十四年四月、筆者は都合へ、の勢致縣會同窓會地方町村事、新聞の使命は十二分上在、五年有半年にして、鮮議改選の觀戰、其間受難と果して得ざらんも全力を致しより歸省した。

當時平町は前々町議改選より引いて一昨年は聲中騒動辱ふし、これを一轉機とし、取ひ附にして、大瀧發電所事件に加ひて、同校同窓會益々地方文化に貢献し、自問題のため全町騒然たるものであつた。

歸省の暇感し期する所あつて新聞經營を志し、同年八月二十五日本紙は孤々の聲を擧げたのである。其の間春秋僅かに十壹ヶ年紙齡貳百號!

悠久なる宇宙、永遠なる新聞の生命よりせば十年のけすみの本郡立候補者は登壇部に一任する事となり、星霜も亦一轉機に若かな正會の齋藤、民政黨野崎、關内、蓮沼、赤津のいが、これを皇國の隆昌、黨の野崎滿藏の雨氏のみで四氏を公認、小野氏は非公認のまゝ、敢然出馬に決定せしむるも、如くならずたので、

民政黨 則比佐原は、石川徳壽、草野三郎、萩原あは、民政比佐原より三追懐をして洵に轉た感を深ふせざるを得ない。

拾年一昔と、願れば本紙刊行拾壹ヶ年! 世は大中の處坂本徳太郎氏に決定出馬を絶対固辭せるもの、如くである。

熱熱なる清情を寄せられた植竹源太郎、桐谷文平先生を擁護して候補論衡をなし、労働争議、警銀其他の金融、福島の田子健吉、在役員はどうか、左の如く、

石城郡の縣議選

政友五、民政四、養一の顔觸か

定員六名! 拾五日後に迫り、部會では四名の現職に當り、現職の下に決定せず、結局新開の生命よりせば十年のけすみの本郡立候補者は登壇部に一任する事となり、星霜も亦一轉機に若かな正會の齋藤、民政黨野崎、關内、蓮沼、赤津のいが、これを皇國の隆昌、黨の野崎滿藏の雨氏のみで四氏を公認、小野氏は非公認のまゝ、敢然出馬に決定せしむるも、如くならずたので、

酒井 清

在留致すこと、相成り来る方々、何程か御盛大の御事の秩父丸にて渡米可致候。正一兄御出馬ですか。在外中は平素にも増して御機嫌御進申上げます。疎遠すること、存候へ共何卒不惡御寛容下被不相變御厚誼願上候。

本郡の會友

警中第十六回卒業生を以て成る二八會々友中本郡の常任會友を列記して觀る。

- 支社開設
 - 山田 盤磨
 - 松本 榮一
 - 野崎 八郎
 - 上田 耕作
 - 山野 彦吉
 - 木村 守江
 - 山崎 忠兵衛
 - 山崎 宣吉
- 評議員
 - 山崎 宣吉
- 支社開設
 - 吉田 金作
 - 山崎 清三
 - 清水 廣政
 - 廣田 徳行
 - 加藤 丈夫
 - 新田 目松
 - 阿部 政右門
 - 諸橋 久太郎
 - 井上 貞治郎
 - 柴田 徳二
- 湯本町
 - 比佐 榮一
 - 鯨岡 潔
 - 鯨岡 久一郎
- 新
 - 小名濱 大越
 - 警崎 村
 - 小泉 恭平
 - 植田 保
 - 小野 保
 - 新妻 恭孝
 - 芳賀 正義
 - 内郷 村
 - 川部 村
 - 小野 敬彌
 - 豊岡 村
 - 橋本 義雄
 - 山野 彦吉

十七回出のクラス會

物故級友の追悼を兼、懇親會を催す。警中十七回卒業のクラス會でありつた。

音信交換

盛夏の候御健勝に。盛夏の候御健勝に。先日貴紙ありがたう御座います。お陰様で故郷の事は能はずでした。

知人消息

諸橋久太郎氏、氏は縣農工重役會出席のため九日會津若松行十一日歸平の豫定

藤 寅

平一丁目 製造 電話一四一番

越 乃 家

平二丁目川岸通 御料理 電話三三〇番

八 千 代

平田町 御料理 電話三七五番

玉 よ し

平南町 御料理 電話四二六番

清 關 内 油 店

日本石油株式 特約店 支店 郡山市 電話長三八番

安山生命保險代理店 帝國海上保險代理店 電話長三七番